

総合計画審議会の審議状況について（第12回袋井市総合計画審議会 議事要旨）

第3次袋井市総合計画 総合戦略編に関すること

【開催概要】

第12回袋井市総合計画審議会を以下の通り開催しました。
第12回からは、新たに委員の入れ替えを行い、改めて第3次袋井市総合計画等の説明を行うとともに、総合戦略編に係る議論を行うため、国の動向や本市の状況などについて説明の上、意見交換を行いました。

日時	令和8年1月13日(火)18時30分～20時30分
場所	袋井新産業会館クラット あきはホール
内容	1 開会 2 委嘱 3 市長あいさつ 4 会長及び副会長の選出について 5 諮問 6 議事 (1) 総合計画審議会の進め方について (2) 第3次袋井市総合計画の概要について (3) 地方創生をめぐる国の動向と本市の取組状況について 7 意見交換 8 事務連絡 9 閉会



【意見交換での主な意見】

- 中小企業が中心の地域で、国が示す高い経済目標を達成することは容易ではない。計画実行においては理想だけでなく実現可能性を冷静に見極めて施策を実行していくことが重要である。
- 若者や女性に選ばれる地域づくりは容易ではない。地元に残ってもらうための取組と外部から人を受け入れるための取組の両方が必要だと感じている。
- 小中学生のうちから地域とのつながりを作り、多様な仕事や大人との触れ合いの中で地域への愛着を育むことで、進学や就職で一度市外に出ても、学びや経験を持ち帰って戻ってこられる地域にしたい。
- 地域の元気には企業の活力が不可欠だが、企業の活力には子育て環境や女性活躍が深く関係している。健康経営や女性活躍の取組は、考え次第ですぐに始められる。
- 少子化によって地方大学が厳しい状況に置かれていることを実感している。多くの高校生が県外に進学し、そのまま戻らない状況にある中、義務教育から大学まで市外・県内で学べる環境があることの強みを整理し、しっかり周知する必要がある。
- 観光分野は単独の取組ではなくスポーツや地域資源などと上手に組み合わせて、静岡県全体の魅力も踏まえつつ袋井市としての強みを発信していくべき。
- ITやAIの進展で地方の仕事が広がる一方で、人と直接関われる場の価値が高まっていると感じている。若者が地域と関われる場づくりや、子どもが地域の大人と関わり続けられる土台づくりが大切である。
- 袋井市は若い世代に占める外国籍の割合が大きい。全ての施策に多文化共生の視点を組み込んでいく必要がある。
- 定住人口や関係人口の拡大は、18歳～25歳頃の人生の大きな転機に袋井市と関係を持てるかが重要。情報発信やイベント等を通じて市民同士のつながりを強めることが必要である。
- 政策の評価では市の内部評価と、外から見た評価との差を意識することが大切である。また、女性が働きにくい状況を改善するヒントとして、スポーツ分野における出産・育児とキャリアの両立に対する考え方が活かせる。
- 総合計画を着実に進めることが、そのまま地方創生につながる。総合戦略編は、総合計画の内容を整理し、特に力を入れる分野を分かりやすく示すものになるため、事務局が整理した案をもとに、委員での意見交換を重ねながら精度を高めていきたい。
- 審議会の役割が計画策定から実行への伴走に変わったと受け止めている。地方創生の取組については、重点を絞りながら、国の動向を見極めて勝負に出ることが重要である。